|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（最終）** | | | | |
| **１．事業計画の概要** | |  |  |  |
| **学校名** | 大阪府立高槻北高等学校 | | | |
| **取り組む課題** | 生徒の学力の充実 | | | |
| **評価指標** | 1. 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間の向上 2. 学校教育自己診断における教員のICT機器の活用率の向上 3. 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 | | | |
| **計画名** | 坂の上の学校から坂のふもとの家庭まで  ～全校Wi-Fiとタブレットで 授業のICT化を深め、家庭学習の増加で 生徒の学力向上へ～ | | | |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** | |  |  |  |
| **学校経営計画の**  **中期的目標** | （２）学力向上・進路目標実現のための３年計画（「北高スタンダード」）の活用を図る。  エ 授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの導入等）を推進し、学力とりわけ思考力・表現力の伸長を図る。  カ 平成29年度学校経営推進費により設置された電子黒板機能付きプロジェクターの導入により授業改革を行い、さらなる学力の向上を図る。 | | | |
| **事業目標** | 「ICTを活用した授業改善」を強く推し進め、教員用タブレットと無線LAN（Wi-Fi）環境を導入することで、導入済みの電子黒板、書画カメラをより効果的・複合的に活用し、「見てわかる授業」「板書時間の削減」「机間巡視による個別指導の増加」「対話的授業」に取り組むことで授業の効率化と、生徒の思考力・表現力の伸長につなげる。さらに、２年め以降は、学情オープンネットに接続された無線LAN（Wi-Fi）環境を利用して、生徒がICT機器を活用して、家庭学習時間の報告集計、課題の授受、授業参加できる機会を増やし、生徒の自己管理能力の向上と思考力・表現力の伸長につなげる。そのことで、  第１に、「生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間をR３年度は１年生70分以上、２年生80分以上、３年生240分以上とする。」を「H30年度（１年52分、２年56分、３年170分）より毎年１・２年は10分、３年は30分ずつ伸ばし、R３年度は１年生80分以上、２年生90分以上、３年生260分以上とする。」に変更、その実現をめざす。  第２に、学校教育自己診断における『教員のICT機器の活用率の向上』を「H30年度61％から、毎年５％引き上げ、R３年度以降は75％以上を維持する。」を付加し、その実現をめざす。  第３に、新たに「外部学力調査における生徒（３年生）のGTZ平均値（国数英）をH30年度のC１ランクから毎年１ランク引き上げ、R２年度以後はB２ランクを維持する。」  を付加し、その実現をめざす。 | | | |
| **整備した**  **設備・物品** | * Windowsタブレット30台 * 普通教室（28教室）及び特別教室、体育館、職員室等（全30箇所）に無線LAN（Wi-Fi）アクセスポイントを設置 * 学情オープンネット（以下『ON』と略す）用サーバ 一式 | | | |
| **取組みの**  **主担・実施者** | 主担： 授業改革PT　（教頭・首席・教務主任・ICT委員長・各教科代表者）  主担： オープンネットPT　（教頭・首席・総合調整部長・ICT委員長・生徒指導部・情報科等の教員）  実施者： 全教員 | | | |
| **本年度の**  **取組内容** | ・ 新着任者向けWi-Fi、オープンネットワーク、情報セキュリティ、電子黒板に関する校内研修。生徒への情報セキュリティ指導（４月）  ・ 新入生のGoogleクラスルームへの登録、学力到達度調査により効果検証（４月）  ・ 本校教諭の実践発表による校内職員研修（８月）教職員相互の授業見学（６～10月）  ・ 本校教諭の実践発表による公開授業の複数回実施（９～12月）  ・ 授業アンケート及び学校教育自己診断で効果検証、授業改革PT及び各教科による次年度の計画案検討、『ON』運用見直し（２月）  ・ 次年度タブレット貸出の選考を実施(３月) | | | |
| **成果の検証方法**  **と評価指標** | １ 学校教育自己診断(生徒向け)平日の家庭学習時間『１年80分、２年90分、３年260分』  ２ 学校教育自己診断(教員向け)『ICTを活用した授業により、授業力の向上につなげた。』75％  ３ 学力到達度調査『３年生のGTZ平均値(国数英)』B２ランク | | | |
| **自己評価** | １ 学校教育自己診断(生徒向け)平日の家庭学習時間『１年80分、２年90分、３年260分』  （本年度結果：第２回学校教育自己診断　１年：59分、２年：61分、３年：177分） （△）  ２ 学校教育自己診断(教員向け)『ICTを活用した授業により、授業力の向上につなげた。』75％  （本年度結果：ICT機器の活用による授業内容の効率化81％、データの共有化79％） （◎）  ３ 学力到達度調査『３年生のGTZ平均値(国数英)』B２ランク  （本年度結果：C１） （△） | | | |
| **事業のまとめ** | ・令和２年度には新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン授業などの必要性が高まり、Google Classroomの導入や、生徒の１人1台タブレットの導入などが行われたが、本校では本事業により令和元年度から先駆けて学校のWi-Fi環境の整備や教員のタブレット利用が進んでいたので、スムーズに対応が可能であった。また、Google Classroomの導入についても、本事業の計画に当初から盛り込んでいたため、導入も容易であった。  ・評価指標であるGTZ平均値については、目標に届かなかったが、本校では文科系の受験者が多いため数学のGTZ値が低かった。国英の平均ではB３ランクであった。また、英語の学習習慣についてはB２ランクを獲得し、徐々にではあるが確実に学習習慣も向上が見られた。  ・教育庁より全校に生徒用のWi-Fiネットワークが普通教室を対象に整備されたが、本事業により本校では普通教室以外の特別教室でも教員がWi-Fi環境を利用することができる。また、本事業により全教室の電子黒板機能付きプロジェクターがWi-Fi環境により接続されているので、今後とも授業でタブレットを用いて電子黒板機能付きプロジェクターで提示するというICTを活用した授業を展開が継続できる。 | | | |